★史上最高のムービー・イベント！★

ブロードウェイで11年間の超ロングラン！全米で2300万人が感動したスーパー・ミュージカル。完全映画化。今、映画は舞台を超えた。

◆リチャード・アッテンボロー監督作品◆

A CHORUS LINE

THE MOVIE

コーラスライン

エンバシー・フィルムズ・アソシエイツ
ポリグラム・ピクチャーズ提供
フューアー&・マーティン・プロダクション
リチャード・アッテンボロー作品〝コーラスライン〟

監督リチャード・アッテンボロー
◆製作サイ・フューアー アーネスト・H・マーティン
総指揮ゴードン・スタルバーグ◆脚本アーノルド・シュルマン
振付ジェフリー・ホーナディ◆配給松竹富士株式会社
◆サントラ盤 ポリスターレコード
◆ノベライズ（講談社X文庫刊） DOLBY STEREO

A CHORUS LINE

★遂に映画になった「コーラスライン」

ワン・ツー・スリー・フォア……ダンスアシスタントの速いビートに合わせた鋭い掛け声に、オーディションに集った数多くのダンサーたちが懸命にステップする――。

緊迫感、汗、ミスして歪んだ顔。不自然な作り笑い。この若者たちの必死のダンシングをカメラは縦横に、ダイナミックに、ときに流麗に余すところなく捉えていく。

監督は「ガンジー」でアカデミー賞受賞の名匠サー・リチャード・アッテンボロー。撮影現場はこのため一年間借り切りのブロードウェイのマーク・ヘリンジャー劇場。数年前には40年代MGMミュージカル全盛期のスター、ミッキー・ルーニーとアン・ミラーが「シュガー・ベイビーズ」で、かくしゃくとしたバーレスク芸を披露していたし、遥かさかのぼる29年前には「マイ・フェア・レディ」でジュリー・アンドリュースをスターにのし上げた劇場だ。この伝統に満ちた舞台上に「コーラスライン」のドラマは激しく、哀しく、そして歓喜につつまれて、人間の感動のすべてを具現化するように進行していく。

★スリリングな若者たちの青春★

トニー賞、ピュリッツァ賞を受賞し、11年のロングラン中で、今なお上演記録を更新中のこのミュージカルほどブロードウェイにとってブリリアントな作品はない。しかし、映画「コーラスライン」の実現には、それ相応な困難がドラマチックに存在した。上演の翌年の'76年にユニヴァーサル映画が映画化権を獲得してから10年、その権利は転々としてプロデューサー3人、脚本家3人、監督5人という曲折を経て現在のスタッフにまとまったのだ。その間、製作費は上昇し、5人目のアッテンボロー監督に決定したときには、間接製作費がなんと2000万ドルになっていたという。直接製作費は2700万ドル。9週間の徹底したリハーサルと15週間の撮影日数を費やしてクランク・アップした。

アッテンボロー監督はさして広くない劇場内にクレーンやレールを使ったカメラワークで舞台のスケールを表現し、あまり映画なれしていないブロードウェイのダンサーたちに針の穴を通すほどのキメ細かい演技指導で、目指した道をひた走る若者たちの人生を美しく、感動的に、しかもスリリングに描きだした。

★あなたに贈るロマンのメッセージ★

オーディションは17名のダンサーたちを舞台に残した。落とされたある者は「またな」と明るくいい、ある者は涙をこらえ、大きなバッグを肩に悄然と去っていく。だが、ブロードウェイのきびしさは、この17名からもまだ容赦なく振り落とすのだ。「お前か?」「俺か?」。その決定は演出家ザックの胸の中だ。一人がケガをして脱落したとき、ザックは言う。「若し、踊れなくなったらどうする?」だが32の目は一斉に同じことを物語る。「自分が選んだ道なのです。踊れなくなっても悔いはない」。

× × ×

この映画にはヒーロー、ヒロインはいない。舞台の前面に引かれた一本の白い線〈コーラスライン〉を境にラインの前で歌い踊るスターを支えるコーラスの健気な人生と試練のドラマであり、次の大きな夢に向って突き進んでいく一人一人の素晴らしいロマン＝目的に賭ける熱い想い＝の映画なのだ。

日米同時・新春

12月14日(土)よりロードショー

※特別鑑賞券〈一般1200円／学生1100円〉発売中

国電有楽町駅・地下鉄銀座駅下車

丸の内ピカデリー1 (201) 2881

日・祝1/2～7	9:50	12:00	2:10	4:40	7:10	12／31は最終回は上映しません。
平日・元旦		12:00	2:10	4:40	7:10	

地下鉄東銀座駅下車・駐車場完備

東劇 (541) 2711

日・祝1/2～7	9:35	11:45	2:10	4:35	7:00	12／31は最終回は上映しません。
平日・元旦		11:45	2:10	4:35	7:00	